

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311
e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

ロスの東繁春さんが『熊本地震』を取材

全国お手玉遊び大会の開催地「益城町」が震源地



平成 28 年 4 月 14 日、熊本県益城町で震度 7 を観測する地震があり、おびただしい数の家屋が倒壊し、たくさんの方が避難生活を余儀なくされています。その震源地の益城町は、平成 14 年に、全国お手玉遊び大会を、発祥の地・新居浜市以外で初めて開催したところでした。

避難場所の益城町総合体育館は、全国大会の会場でした。お世話になりました益城町の皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。

その熊本地震の現地を、ロサンゼルスで日本文化を英語で紹介する新聞『Cultural News』（カル

チュラル・ニュース）編集兼発行人の東繁春さん（日本のお手玉の会新居浜支部顧問）が、取材に訪れました。そのレポートの一部を紹介します。

地震から 1 か月たっても 1400 回の余震が続く

4 月 29 日から 5 月 3 日まで、熊本市、益城町、御船町、阿蘇を取材してきました。地震発生から 1 カ月がたちましたが、これまでの日本での地震と違い、この間に約 1400 回の余震が続いていて、安全と判定された家屋で夜を過ごすことに危険を感じる人が、車の中で寝ていることです。今でも、1 万人以上の避難生活が続いています。地震で損壊した建物は約 8 万 2000 棟（熊本・大分県）です。

熊本県では、家屋の全半壊が約 5 万 5000 棟で建物は残っているものの住むことが危険と判定されている家屋は約 1 万 4000 棟です。

東日本大震災の教訓が生かされていて、全国の 100 を超える地方自治体（市や町から）吸水車や、水道局職員、そしてゴミ運搬トラック、職員が派遣されていることを確認することができました。

自衛隊の災害復旧活動に加えて、全国からの行政の支援が、電気、水道、ガスが復旧し、コンビニやスーパーで営業が再開できたことにつながるのだと思いました。今回の熊本地震では、当初は、ボランティアの受付を断る市町が多かったのも、こうした地域の経済活動が早く復活したことも、原因だったのではないかと思います。

（写真上：被害を受けた熊本城は「立ち入り禁止」に（5.1）、写真下：倒壊した御船町の家屋に「危険」の張り紙（5.1）、いずれも東繁春さんが撮影したものです）

